

「7月になりました」(令和3年7月5日(月))

宮城県・柴田町立船岡中学校 校長

7月 は、1学期のまとめの時期

5月12日のまん延防止等重点措置の解除から
対外試合の再開、郡中総体、6月に入り、陸上競技、
駅伝、水泳の各大会のほか、特別支援学級合同学習
発表会や期末考査が行われました。一気に駆け抜け
た2か月だったように思います。

7月 は、1学期のまとめの時期です。学習面や生
活面、家庭での様子など、年度当初の目標がどの
程度達成できたかを振り返り、改善するところは
改善し、全校生徒一人一人が、1学期頑張ったとい
う実感を持って終えられることを願っています。

大 雨被害に遭われた多くの皆様に 心よりお見舞い申し上げます

東北地方も今月に入ってから本格的な梅雨空が
続いています。東海、関東地方など、大雨による
被害の報道には、呆然とし驚くばかりです。被害
に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

これから、災害の多い季節になります。昨年夏
休み明けに行った「町防災マップ」を活用した防
災学習を振り返り、①自宅周辺の地形や危険箇所、
浸水状況の確認、②洪水時の避難の仕方の確認、
③各家庭での防災行動計画(タイムライン)の作
成につなげてほしいと思います。

◆◆◆◆◆【読書案内】◆◆◆◆◆

中村計「金足農業、燃ゆ」(2020年、335ページ)

平成30(2018)年8月。平成最後の夏の甲子園で、
秋田県代表・金足農業高等学校が準優勝しました。
この本は、金足農業の選手、監督、コーチ、OB
や対戦相手チームへの取材を基にして書かれたノ
ンフィクションです。

「公立」で「農業高校」で「雪国」で「秋田県内のごく狭い地
域から集まった選手たち」で、県予選から甲子園の決勝まで合計
11試合(うち甲子園6試合)を、3年生9人で戦い抜きました。
テレビや新聞などで大きく報道されましたので、ご記憶の方も多
いと思います。

ここでは、本書の中から2つのエピソードを紹介します。1つ
目は、決勝戦の翌日、チームが大阪伊丹空港から臨時便で秋田に
帰るときのこと。搭乗するために外に出たとき、JALの方が『感
動ありがとう』という横断幕を持って、暑い中、アスファルトの
上でずっと立ってしてくれました、ということ(p.307)。2つ目
は、「少子高齢化が進む秋田県は、人がいない、産業がないの、
ないない尽くし。農協の組合長が『金農の野球で、生きる力もら
えた。大人もがんばんなきゃだめだ』って言ってくれたことが最
高に嬉しい!」という金足農業高校の校長先生のお話(p.326)。

このようなエピソードは、他にも随所に書かれていて、同県出身の私としては、嬉しく
なりました。ある高校の部活動が全国で準優勝するという快挙を成し遂げ、当該の県民だ
けでなく、全国の多くの方々に感動を与えたことが、この本を読んで改めて感じました。



選手の背中を押してくれる新たな横断幕
が加わりました。県大会での活躍を期待
しています。「DO YOUR BEST !!」



卒業アルバム用の写真撮影が進んでいま
す。先週は部活動の写真撮影でした。



3年生の廊下には、各高校から届いた
オープンスクールの実施要項等が掲示
されています。



柴田町防災マップ
(柴田町HPより)